

# 南関町地域未来構想

## 《概要版》



“魅力づくり” “住む場所づくり” “拠点づくり” “人づくり”の  
4点トッパ(突破)で  
安心して暮らせる協働のまちづくりを進めよう



町内の4つの小学校区を基本として、地域が持つそれぞれの特性を生かしつつ、南関町全体が持続可能なまちづくりを進めるための指針となる「南関町地域未来構想」を取りまとめました。本構想は、今後の開発・整備や事業を決定・拘束するものではなく、まちづくりの方向性を示すものです。

令和4年3月

# ◆町全体のまちづくりの方針

まちづくりの課題を短期間に全てを解決するのは難しいため、町民アンケートやワークショップにおいて今後のまちづくりに重要であると指摘された“魅力づくり”“住む場所づくり”“拠点づくり”“人づくり”の4つの柱でまちづくりに取り組むことを“4点トッパ（突破）”としてまちづくりの方針とします。

## 4点トッパ（突破）で

“味のあつた拠点の連携と安心して暮らせる協働のまち”

を目指す

### 南関4点トッパ（突破）

**トッパ1**  
魅力づくり



**トッパ2**  
住む場所づくり



**トッパ3**  
拠点づくり



**トッパ4**  
人づくり



**トッパ1**  
魅力づくり

《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》**施策展開のイメージ**

- ◆中心部（まちなか・中心市街地）の再生⇒新庁舎を核とした南関版コンパクトシティの実現
  - ・旧役場及び公民館の敷地活用、うから館の活用
  - ・老朽化した町営住宅の改善
  - ・ニーズに合う商店街の形成、活性化
  - ・空き家・空き店舗を活用した魅力あつた施設の創出（お店、アトリエ、休憩所、交流施設、宿泊施設等）
- ◆各校区の特性を生かした校区の魅力づくりとそれぞれの連携

**トッパ2**  
住む場所づくり

※全校区共通

《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》**施策展開のイメージ**

- ◆空き家、遊休地を活用した住宅・宅地の供給
  - ・移住体験お試し住宅としての活用
  - ・民間賃貸住宅や持家としての活用
  - ・借り上げ町営住宅としての活用
- ◆町内立地企業の従業員の受け皿となる住宅・宅地の供給
  - ・民間による賃貸住宅や分譲宅地・住宅の供給
- ◆老朽化した町営住宅の改善
- ◆安全で快適な居住環境の形成
  - ・安全な道づくり（通学路や夜道の安全性、緊急車両の進入路など）
  - ・危険な空き家（特定空き家）の除却
  - ・子どもの遊び場や憩いの場の創出
- ◆各種生活支援制度の活用促進
  - ・“住んでよかったプロジェクト”の周知、活用促進（見直しを含む）
- ◆買物や通院に対する新しい支援策の構築
  - ・移動販売やオンラインショップ、訪問診療、オンライン診療など、車がなくても買物・通院等の不便を感じさせないしくみの構築
  - ・お店や医療機関と連携した、デリバリーや送迎等の検討

**トッパ3**  
拠点づくり

《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》**施策展開のイメージ**

- ◆まちなかの再生による南関の顔となる魅力あつた交流拠点（中心拠点）の形成
  - ・交流拠点としての「うから館」の活用、旧役場及び公民館の敷地活用
  - ・個性あつた商店街の形成
  - ・まちなか居住の促進
- ◆各校区の特性を生かした味のあつた校区拠点（生活拠点）の形成
  - ・第一校区：南関の顔となる魅力あつた交流拠点
  - ・第二校区：伝統産業を生かしたふるさと体験の拠点
  - ・第三校区：新旧の住民がふれあう新しいコミュニティ拠点
  - ・第四校区：企業と連携した新しいふるさと活動の拠点

**トッパ4**  
人づくり

※全校区共通

《行政と住民、事業者等が協働で行うこと》**施策展開のイメージ**

- ◆南関を体験、学習することによる、南関を愛する“南関っ子”の育成
  - ・自然体験学習、伝統産業の体験学習等
  - ・企業や伝統産業の工場見学、伝統工芸の工房見学等
  - ・都会の子を受け入れる山村留学制度（南関留学）の検討
- ◆祭りやイベントによる絆づくり
  - ・伝統行事や祭りの継承、校区運動会等の校区行事、花いっぱい運動などの住民活動の活発化
  - ・町内の企業や事業者と連携した、新しい交流イベントの開催
- ◆新しい住民活動の支援
  - ・提案型活動助成の検討
  - ・自治会活動、自主防災活動などの活性化

# ◆南関町の将来像

## 1) 周辺4都市と連携したまちづくりの将来像

本町は、世界遺産やテーマパークがある“大牟田市”、“荒尾市”、八千代座や温泉がある“山鹿市”、“玉名市”と隣接しており、南関インターは、これら4都市への玄関口となっています。

このため、今後の南関町のまちづくりは、町域の枠を越えた広域的な視野で周辺4都市を取り込み、“来て・観て・住んでもらうまちづくり”を目指し、魅力ある、住み心地の良いまちづくりを進めます。

町域の枠を越え、

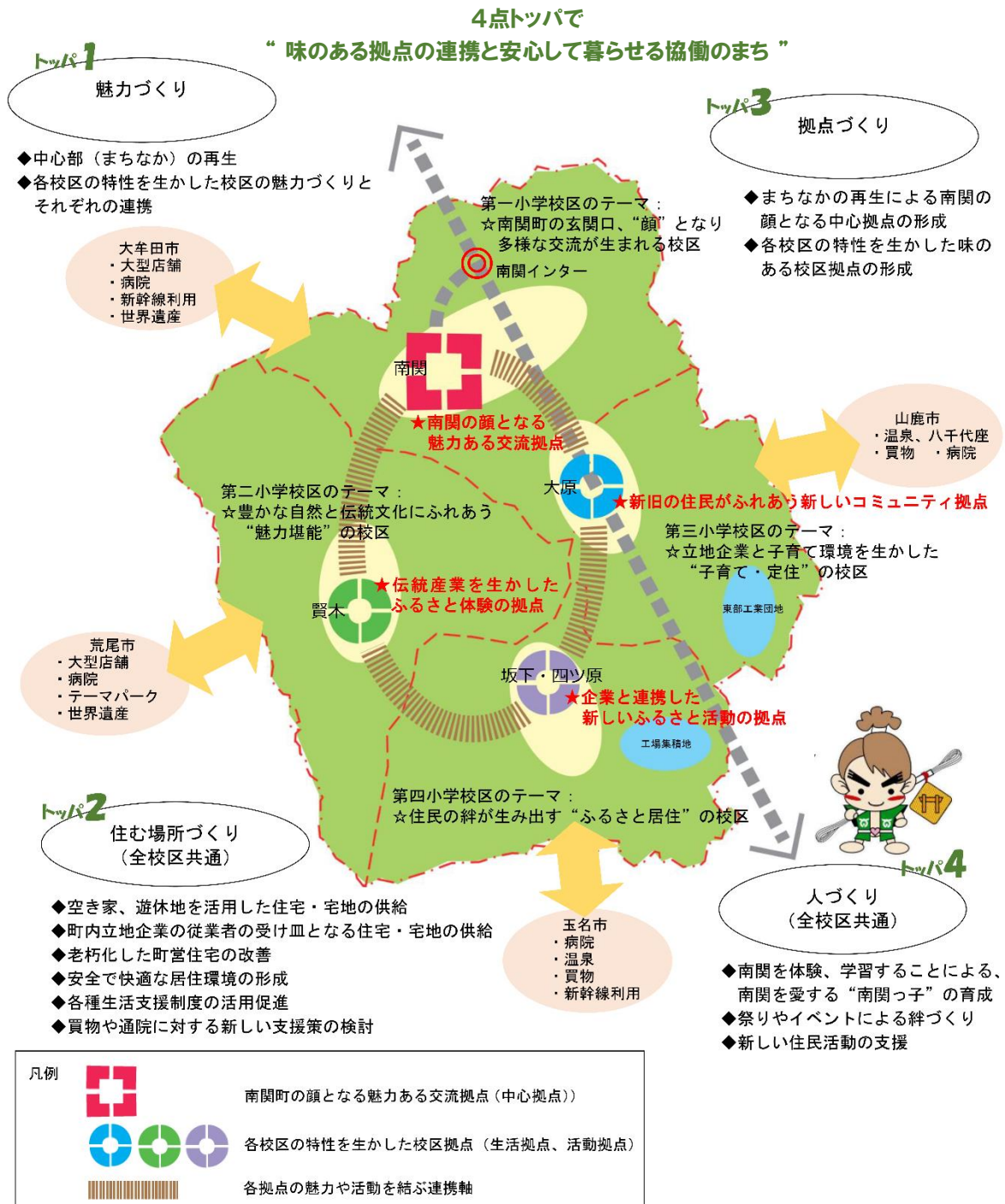
周辺4都市を取り込んだ、魅力ある住み心地の良いまちづくり

- 世界遺産や八千代座、温泉を訪れる観光客や修学旅行客が南関町の拠点に立ち寄り、南関町を楽しんで、住んでみたいくなるような魅力あるまち
- 周辺4都市に広がる生活圏域を形成し、4点トッパに取り組むことにより、日常生活はもとより、余暇も十分に楽しめ、町内の企業に通勤して来る町外居住者も、南関町に住みたくないような魅力あるまち



## 2) 4点トッパのまちづくりの将来像

4点トッパ（4つの施策の柱の展開と4つの拠点形成）により、“味のある拠点の連携と安心して暮らせる協働のまちづくり”を推進します



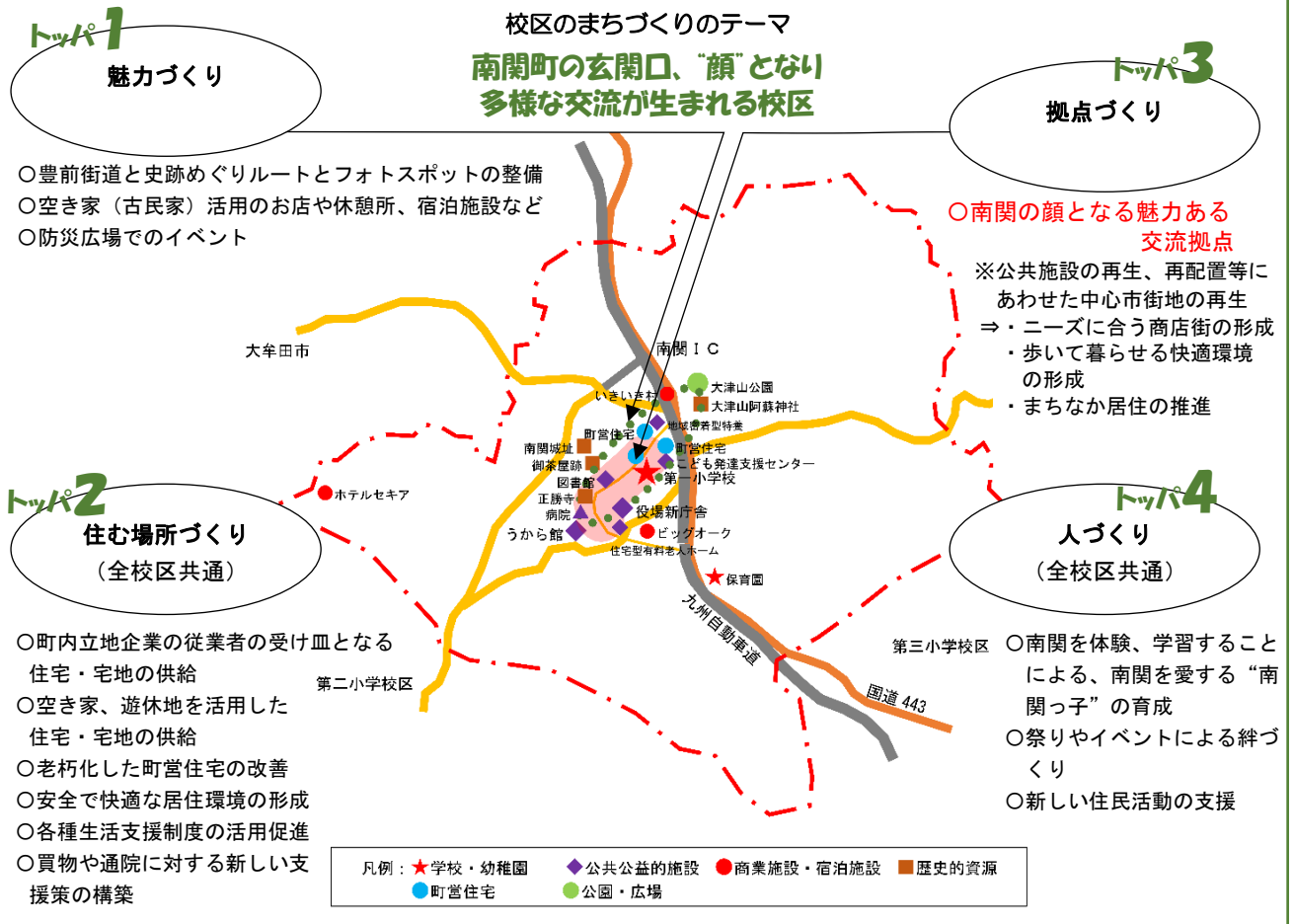
## 3) 南関版コンパクトシティの推進

南関版コンパクトシティの柱として、また町の一大プロジェクトとして令和3年度に役場庁舎、保健センター、地域包括支援センターを旧南関高校跡地を活用した役場新庁舎へ移転し、行政機能を集約することで防災及びまちづくりの拠点形成を進めてきました。

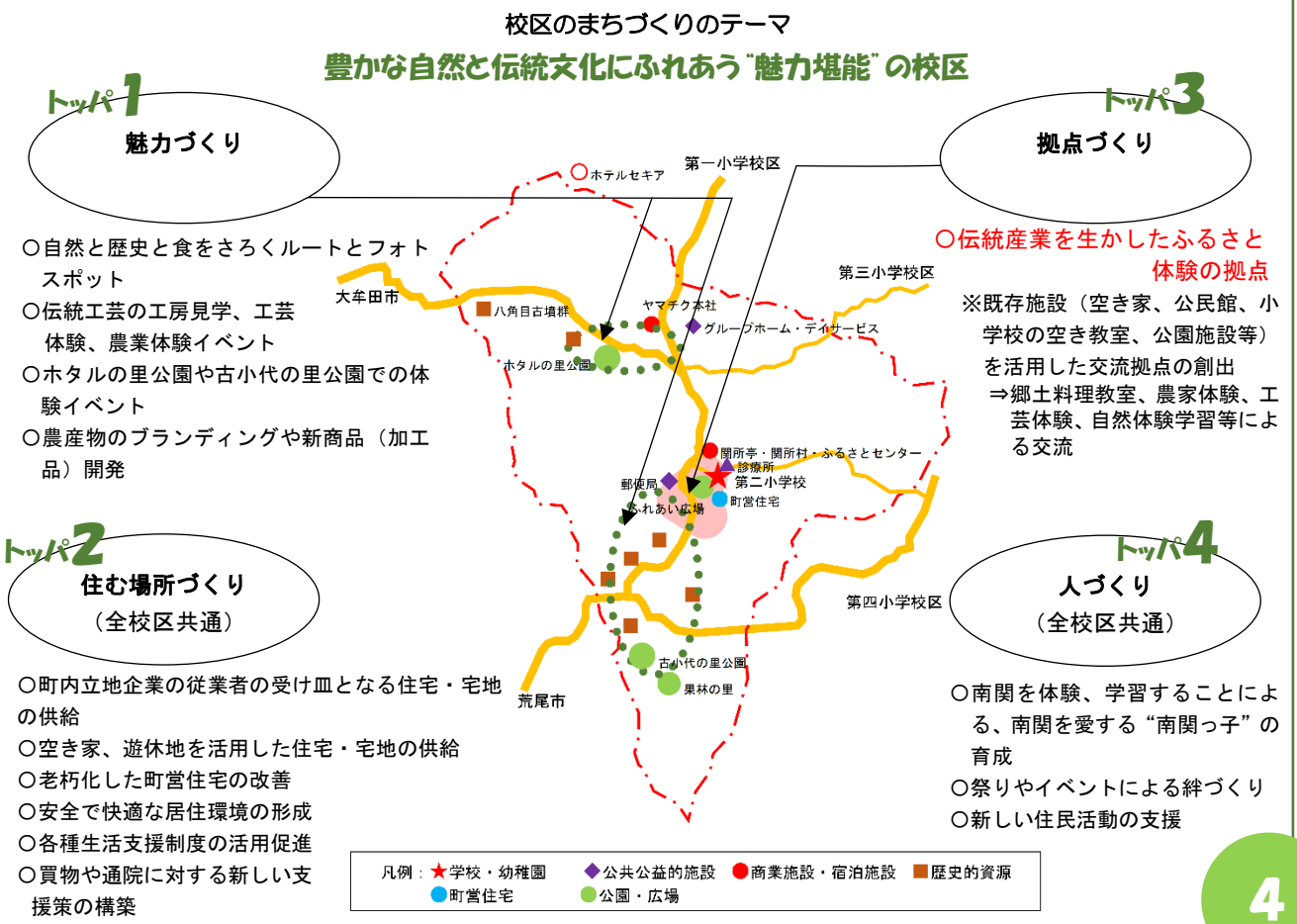
今後は、旧役場庁舎、公民館跡地、温浴施設廃止後の南の関うから館を活用し、さらなるまちなかの魅力化と行政コストの削減及び住民の利便性向上に取り組み、良好で魅力ある住まいづくり、まちづくりの実現を推進します。

# ◆各校区の将来像（1）

## 第一小学校区の未来構想図



## 第二小学校区の未来構想図



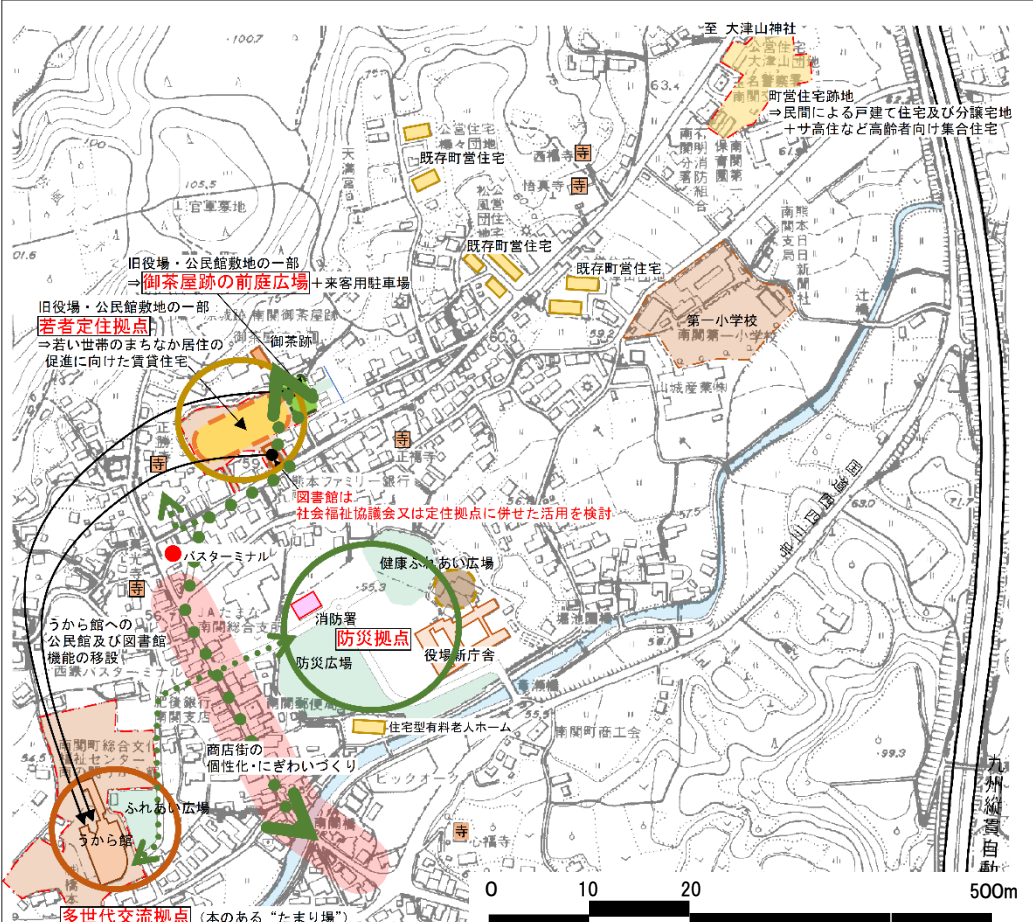


# ◆中心部（役場周辺地区）の将来像

○旧役場及び公民館敷地については、まちなか居住の促進による中心市街地の活性化の観点から、“若者定住の拠点”として活用する方向で検討しますが、同時に行政コストの削減のため PFI など民間活力を活用する検討を進めます。なお、同敷地内の御茶屋跡前の敷地については、御茶屋跡の歴史的な雰囲気を損なわないよう配慮し、検討を進めます。

○うから館については、多様な世代の人が気軽に立ち寄り、利用できる施設として、1階部分は“本のあるたまり場”として活用し、2階部分は公民館機能を移設する方向で検討を進めます。

## ■中心部（役場周辺地区）の未来構想（案）

<p>中心部の未来構想（案）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧役場庁舎及び公民館敷地に若者定住拠点（若い世帯向け賃貸住宅）等の定住拠点を検討</li> <li>図書館は機能をうから館に移設することを検討し、社会福祉協議会又は定住拠点と併せた活用を検討</li> <li>うから館は“本のあるたまり場”（多世代交流拠点）としての活用を検討</li> </ul> 
<p>考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館：・図書館機能をうから館に移設することを検討し、社会福祉協議会又は定住拠点と併せた活用を検討</li> <li>○旧役場、公民館敷地：若者定住拠点＋御茶屋跡の前庭広場＋来客用駐車場             <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世帯向け賃貸住宅（移住定住希望の子育て世帯や単身世帯優先など）</li> </ul> </li> <li>○うから館：・2階部分/公民館機能の移設             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1階部分/図書館機能の移設 ⇒ 本のある“たまり場”（多世代交流拠点）の創出</li> </ul> </li> <li>○めぐりルート：うから館—商店街—正勝寺—御茶屋跡を結ぶルート（カラー舗装化）</li> </ul>



■事例：群馬県桐生市定住促進住宅

●若者定住拠点：  
若い世帯向け賃貸住宅のイメージ  
例えば…  
・移住定住希望の子育て世帯優先入居  
・おおむね5年以内に他の持ち家への住み替えが条件  
町は住み替え支援を行う。



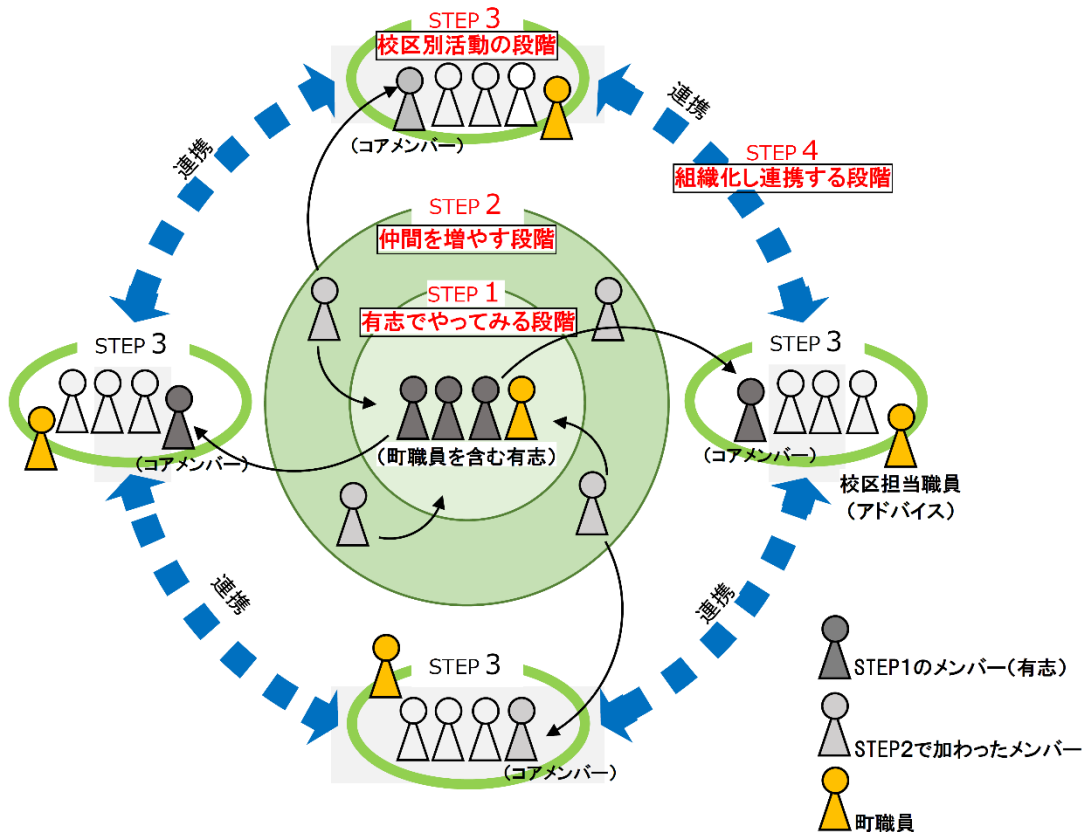
●多世代交流拠点：  
本のある“たまり場”のイメージ

■出典：https://www.shutterstock.com

# ◆実現化に向けて：段階的な体制づくり

町の中心部や各校区のまちづくりの段階に応じて下図に示すように徐々に活動の輪を広げ、体制を整えていく必要があります。

【段階的な体制づくりのイメージ】



【ステップ毎の活動と支援のイメージ】

活動を通して徐々に仲間を増やす	STEP 1：有志でやってみる段階 ○空き家の活用、防災広場でのイベントなどにチャレンジ	●提案型活動助成金等による支援	町
	STEP 2：仲間を増やす段階 ○STEP 1の活動の継続や規模拡大、新たなチャレンジなど	●提案型活動助成金等による支援	
	STEP 3：校区別活動の段階 ○まずは、各校区に一つの魅力づくりへの取組みなど	●情報提供やアドバイス等の支援	
	STEP 4：組織化し連携する段階 ○まちづくり協議会等の組織の立上げ、協議会間の情報交換や連携した活動の展開	●情報提供やアドバイス等の支援	